

幸せを分けてあげたい！

NPO 法人いぶりたすけ愛
理事長 星川光子

2011年7月に登別で行われた全国高齢者生き生きグループリビングのワークショップが開かれたのを機にグループリビング運営協議会が発足しました。そのワークショップで、グループリビングたすけ愛の家の代表を務めていた居住者の宮崎さんが全国の参加者を前に「私たちはグループリビングに住んで幸せに暮らしています。この幸せを多くの高齢者に分けてあげたい」と挨拶をされたことを思い出します。私は、微力ながらもグループリビングの発展のために力を尽くしたいとの思いを新たにしました。

宮崎さんは今年の3月に94歳で帰らぬ人となりました。たすけ愛の家のオープンとほぼ同時に仙台から、長年暮らした登別に戻ってきた宮崎さんは、11年間、たすけ愛の家の代表を務めてくれました。

笑いが大事だよと、いつも人を笑わせる小話を考え披露してくれたものです。保育所の子供たちとの交流会には、ティッシュで一つ一つ作ったたくさんの蝶々を扇子で仰ぎ、本物の蝶が舞っているかの美しい様子に子供たちは大喜びでした。人を喜ばせることが生きがだった宮崎さんです。

ここ2年ほどは腰痛で車いすの生活になっていましたが、ベッドの上で、ラジオを聴きながら落語を練習し、小話を考えていたようです。難聴がありましたが、物忘れはほとんどありませんでした。

「1人はみんなのために、みんなは1人のために」のグループリビングの「自立と共生」の精神を貫き、誰をも暖かく迎え、笑いを作ってくれた宮崎さんに感謝でいっぱいです。これからも宮崎さんが作詞した「たすけ愛の家の歌」、「百の会の歌」は歌い継がれていくでしょう。そして優しく、暖かく、笑顔で、幸せを伝えていきたいと思います。

第 6 回定時総会・第 7 回理事会を開催しました。

第6回定時総会、第7回理事会が、7月23日15時より北海道登別市のたすけ愛の家において、正会員、正会員26人中16人（内委任状6人を含む）出席のもと、真摯なる討議が行われ、すべての議案において可決承認されました。

議第 1 号

I 本会の現況

1 会員の異動

本年度の入会並びに退会及び会員数は次のとおりである。

	正会員 (団体)	正会員 (個人)	賛助会員 (団体)	賛助会員 (個人)	学生 会員	合計
2016.3.31	13	9	1	1	2	26
入会	1	3	0			4
退会						
会費納入無						
会員種別変更*						
2017.6.31 会計人数	11	12	1	1	2	27
2017.3.31 現在会員数	14	12	1	1	2	30

2 役員の現員

理 事 7名（うち会長1名）

監 事 1名

3 第 5 回定時総会

○定時総会を次のとおり開催した。

日 時 7月23日（土）

場 所 NPO 法人 COCO 湘南 COCO 湘南台

出席者数 15名（うち3人委任状）

○議決承認事項

- 1) 平成 27 年度事業報告について
- 2) 平成 28 年度事業計画について
- 3) 定款の変更について
- 4) 役員を選出について

4 役員会 メール審議

○メール審議 1回(6月20日)

- ・日本福祉まちづくり学会全国大会展示会出展参加について出展参加することが決定。

5 第6回理事会を次のとおり開催した。

日時 7月23日(土)

場所 NPO法人COCO湘南 COCO湘南台

出席者数 7名

○議決承認事項

- 5) 平成27年度事業報告について
- 6) 平成28年度事業計画について
- 7) 定款の変更について
- 8) 役員を選出について

II 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

①平成27年度JKA補助事業

「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」

(事業主体社会福祉法人福島福祉会)に協力

- ・自己評価、完了報告書、広報資料等

②平成28年度JKA補助事業

「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」

(事業主体 特定NPO法人暮らしネット・えん)に協力

- ・企画・運営、講師派遣、報告書作成

③平成29年度JKA補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る

活動」(事業主体 特定NPO法人暮らしネット・えん)に協力

- ・企画、申請書作成

④グループリビングを作りたい人、入居したい人に対する相談

2 ワークショップの開催協力

JKA補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」に協力し、新座ワークショップを開催。

日時 3月4日(土)

場所 えんの森(特定NPO法人暮らしネット・えん)

3 グループリビングの研究調査協力

- ・JKA補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」において「高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的研究」に協力。
- ・18件の高齢者小規模共同居住の運営者や潜在的運営者を調査し、報告書(調査研究編・報告会記録編)をまとめた。

4 ホームページの運営

- ・ JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」に協力
- ・ HP を更新 : <http://www.glnet-groupliving.org/>

5 会報の運営

- ・ JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」に協力
- ・ 会報 : 年 3 回 (メール等で関係者に配信)

6 その他

- ・ 日本福祉まちづくり学会全国大会展示会出展
日程 8月5日~7日
場所 北海道函館アリーナ
参加者 上野・星川・中村・小島・宮野・土井原

III 今後の課題

- (1) 会員数は、平成 28 年度は平成 27 年度と比較すると増加し、GL を作りたい団体 2 と研究者 2 名が新たに入会した。今後も会員が増加するように努力が必要である。
- (2) 平成 28 年度は、JKA 補助事業が満額で採用されたことや小樽での展示会に参加したことで前年度よりも出費が多くなった。今年度もほぼ同額での助成が決まっているため、収入を増やすことが求められる。資金源となる新たな事業を考えるとともに訪問記や報告書の販売部数やワークショップ参加費などを通して収入を増やす必要がある。
- (3) 協議会の活動は今年で 6 年目となる。この 6 年間で協議会のネットワークが強くなり、体制も整ってきた。協議会の活動をさらに活発化させグループリビングの暮らし方を社会に広げていくため、新たな活動を検討する時期にきている。
- (4) 昨年度行った JKA 補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」は 3 年計画の 1 年目であった。これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行うことができた。今年度は引き続き調査研究を行い、良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示することが求められる。
- (5) グループリビングの知名度は未だ低いため、全国に向けてグループリビングの普及啓蒙活動を活発化する必要がある。その方法の 1 つとして JKA 事業の調査研究を通して、他の高齢者住宅にグループリビングの良さを伝えることができる良い機会だと考えられる。

2016 年度 グループリビング運営協議会収支報告書

2016 年 4 月～2017 年 3 月末日（整理期間 2017 年 6 月末日迄）

収入の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
年会費	353,000	350,000	3,000	
寄付	32,000	50,000	▲18,000	本売上等
雑費	2	0	2	利息
前期繰越金	218,542	218,542	0	
収入合計 (A)	603,544	618,542	▲14,998	

*2016 年 4 月に納入された 2015 年度の会費 1000 円を含める。2017 年 6 月末日までに納入された 2017 年度の会費 10,000 円は含めず次年度に報告。

支出の部

▲印減額（単位:円）

科目	決算額	予算額	増減	備考
臨時備益費	102,600	100,000	2,600	JKA 書類作成・事務等
交通費	3,080	5,000	▲1,920	JKA 事業補助対象外交通費
通信費	39,570	39,000	570	電話代、郵送代、HP ドメイン更新費用等
活動費	38,760	30,000	8,760	福まち学会展示料・謝金
支援費	349,000	349,000	0	JKA 事業自己負担分
雑費	3,715	5,000	▲1,285	文具・振込手数料等
予備費	3,000	5,000	▲2,000	HP 修正（業者）
支出合計 (B)	539,320	533,000	6,320	
次期繰越収支差額 (A) - (B)	64,224	85,542	▲21,318	

*前期繰越収支差額は、前年度振込手数料 432 円（3 月 31 日）分がカウントされていなかったため修正。
(218, 974 円→218, 542 円)

2016年度 監査報告

グループリビング運営協議会

会長 星川 光子 様

監 事 宮野 順子



1. 監査の概要

2017年7月20日、メール添付により資料を送付いただき、2016年度の決算書類及び業務執行について監査を行いました。

2. 監査結果について

監査にあたり、決算書及び帳簿、通帳、領収書、伝票などを確認し、間違いのない適正な執行を確認しました。

3. 業務執行について

2016年度に協力したJKA補助事業「高齢者グループリビングの社会普及に向けた実践的調査研究事業」では、これまで本協議会で蓄積した知見をベースに、全国の高齢者の小規模共同住宅や実力のある地域密着型の事業者に対して調査研究を行い、多くの活動の成果が得られました。

4. 今後の課題

2016年度は、会員数の増加がみられました。引き続き、JKA補助事業の調査研究を通して、良質な汎用性のあるモデルを社会に向けて提示するとともに、他の実践的な高齢者住宅と連携し、グループリビングの普及啓蒙活動を活発させ、会員数の増加を図っていくことが求められます。

以 上

2017 年度 事業計画案

I 本会の運営

1 会員の増強

JKA 事業の活動を通して会員の増強策を図る。
会員を通しての募集に力を入れる。

2 役員、顧問の現員

理事 7名（内、会長 1名、理事 6名）
監事 1名

3 第 6 回定時総会

○定時総会を次のとおりに開催する

日時 平成 29 年 7 月 23 日（日） 15 時 00 分より

場所 NPO 法人いぶりたすけ愛

4 役員会議。

○第 7 回理事会 1 回（7 月 23 日）

II 目的事業

1 グループリビングへの支援・相談活動

①平成 28 年度 JKA 補助事業

「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」
（事業主体 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力（別添資料）
・自己評価、完了報告書、広報資料等

②平成 29 年度 JKA 補助事業

「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動」
（事業主体 特定 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力
・企画・運営、調査研究、講師派遣、報告書作成

③平成 30 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を作る活動」
（事業主体 特定 NPO 法人暮らしネット・えん）に協力
・企画、申請書作成

④個人や法人に対するグループリビングについての相談

2 調査研究

- ・平成 29 年度 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会をつくる活動・高齢者グループリビングの社会的普及に向けた実践的調査研究」(事業主体 特定 NPO 法人 暮らしネット・えん) に協力
- ・メンバー 上野・大江・小島・中西・宮野・近兼・林・土井原

3 ホームページの運営

- ・平成 29 年度 JKA 補助事業に協力
- ・記事作成、記事更新等

4 会報の運営協力

- ・平成 29 年度 JKA 補助事業に協力
- ・年 3 回発行

5 その他

- ・見学会実施
日時 7月 22日 (土)
場所 わかば館 (北海道小樽市)

2017 年度活動計画予算案

2017 年 4 月～2018 年 3 月末日（整理期間 2018 年 6 月末日迄）

収入の部

▲印減額（単位:円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
年会費	350,000	350,000	0	
寄付	80,000	50,000	30,000	本売上等
雑費	0	0	0	利息
前期繰越金	64,224	218,542	▲154,318	
収入合計（A）	494,224	618,542	▲124,318	

支出の部

▲印減額（単位:円）

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
臨時備益費	100,000	100,000	0	JKA 書類作成・事務等
交通費	5,000	5,000	0	
通信費	40,000	39,000	1,000	電話代、郵送代、HP ドメイン更新費用等
活動費	0	30,000	▲30,000	
支援費	328,000	349,000	▲21,000	JKA 事業自己負担分
雑費	10,000	5,000	5,000	文具・インクカートリッジ・振込手数料等
予備費	5,000	5,000	0	HP 修正（業者）
支出合計（B）	488,000	533,000	▲45,000	
次期繰越収支差額 （A）－（B）	6,224	85,542	▲79,318	

以上

特集

なぜ有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に登録していないのでしょうか？

NO. 15 の特集に引き続き、グループリビングの運営者にご意見をいただきました。

居住者と地域住民がともに暮らしを作っているためです

NPO 法人グループリビング川崎
COCO 宮内
理事長 原 眞澄美

今のところ県から有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅にするようにとの要請は受けていない。川崎市は、隔年作成している「高齢期の住まいガイド」に介護保険上の高齢者施設やサービス付き高齢者向け住宅とは別のジャンルでグループリビングを位置づけてくれている。

グループリビングは、「自立と共生」という理念の中で生まれており、居住者と地域に住んでいる人たちがCOCO 宮内を拠点に毎日の暮らしがより良くなるように支え合う地域活動だと考えている。

COCO 宮内は、運営主体が何か決めて押し付けるのではなく、居住者と地域住民がともに暮らしを作っているため、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅とは区別すべき住まいである。

グループリビング運営協議会 会員募集中

グループリビングの暮らし方や運営について、一緒に考えていくことのできる仲間、情報提供してくれる仲間を作りませんか。

■グループリビング運営協議会 連絡先 土井原奈津江

NPO 法人いぶりたすけ愛内

連絡先 natsue@sfc.keio.ac.jp



編集後記

アメリカのポートランドでコハウジングという高齢者グループリビングに似た住まいを作っているグループのメンバーに会いに行きました。アメリカは車社会のため、高齢になり外出が難しくなると誰かに依存して暮らすこととなります。そうした親世代の高齢期をみてきた人たちが、比較的若い時期（55歳以上）から仲間と良い関係性を作りながら、いざとなったら助け合える住宅を建設することを考え、仲間を集め、話し合いながら土地を買い建物を建て共同の住まいを実現しようとしていました。仲間と言っても以前からの知り合いではなく暮らし方に賛同して集まった人達でした。建物の工事が遅れ、残念ながら建物内に入ることではできませんでしたが、今後の彼らの暮らしに注目していきたいと思います。（な）

編集委員 小島美里 土井原奈津江



この会報は財団法人 JKA 補助事業「お年寄りが幸せに暮らせる社会を創る活動」で運営されています。